

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは9月30日（火）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		9月29日現在	10月の予想 (月末値)		
USD	ドル・円 (円)	148.59	142.0	～ 152.0	147.0
	日銀の利上げ観測高まれば、ドル円は小幅の円高修正を展望				
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.173	1.14	～ 1.20	1.17
	ユーロ・円 (円)	174.25	165.0	～ 179.0	172.0
	様子見姿勢を維持するECBのもと、ユーロは底堅く推移か				
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.343	1.32	～ 1.36	1.34
	ポンド・円 (円)	199.54	185.0	～ 205.0	197.0
	財政に関する税収不足懸念や悪い金利上昇リスクが意識され軟調な英ポンドを予想				
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	97.74	93.0	～ 101.0	97.0
	NZドル・円 (円)	85.82	82.0	～ 88.0	85.0
	強い豪ドル・弱いNZドルの構図が継続か				
株式 相場	日経平均 (円)	45,044	42,000	～ 46,000	44,000
	ショートカバーも一服し横ばい圏で推移する公算が高まった				
	NYダウ (ドル)	46,316	43,000	～ 48,000	46,500
	決算を控え利益確定売りや押し目買いが交錯しよう				
長期 金利	日本 (%)	1.643	1.50	～ 1.70	1.60
	日本銀行の利上げ期待が維持され長期金利は高止まり				
	米国 (%)	4.139	4.00	～ 4.50	4.25
	米経済は中期的に底堅く推移し、金利は小幅に上昇しよう				

◆ 今月の注目ポイント

新首相の下で10月利上げを模索する日銀

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
政治	◎	【自民党総裁選】世論調査を勘案すると小泉氏と高市氏中心の争いとなる構図。市場では高市氏がアベノミクス連想で株高期待が強い候補となっているが、柱の一つである金融緩和はインフレ抑制がテーマとなるなか焦点となりにくい。一方、財政出動は各候補共通テーマだけに、劇的な差異は生じにくい。また先進各国で超長期金利が急上昇するなど財政リスクも意識されるなか大幅な財政拡張も難しい。
金融政策	◎	【日米金融政策会合】10/29FOMCは利下げの有無、10/30日銀は利上げの有無が焦点となっている。日銀については既に9月の決定会合で田村氏と高田氏が利上げ提案をしている。日銀短観や支店長会議を見極めて判断となる。一方、FRBについては雇用統計等の見極めが重要。9月FOMCでは年内追加0.5%以上の利下げ予想と0.25%未満の利下げ予想は拮抗していた。関税影響によるインフレリスクが意識されれば、利下げは次回FOMCの12月に見送りとなる可能性がある。

◆ アジア通貨見通し

	9月29日現在	10月の予想 (月末値)		
人民元・円	20.83	20.00	～ 21.00	20.50
バーツ・円	4.612	4.50	～ 4.70	4.60
ルピア・円	0.891	0.85	～ 0.93	0.89

◆ 今月の重要日程

1日 (水) 日 9月調査日銀短観	15日 (水) 米 9月CPI
2日 (木) 日 内田日銀副総裁講演	16日 (木) 米 9月小売売上高
3日 (金) 米 9月雇用統計	20日 (月) 日 高田日銀審議委員講演
3日 (金) 米 9月ISM製造業景況感指数	20日 (月) 中 9月生産・小売・投資統計
4日 (土) 日 自民党総裁選・投開票	29日 (水) 米 FOMC
6日 (月) 日 日銀支店長会議	30日 (火) 日 日銀金融政策決定会合

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2025/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



出所：Bloomberg

米ドル円

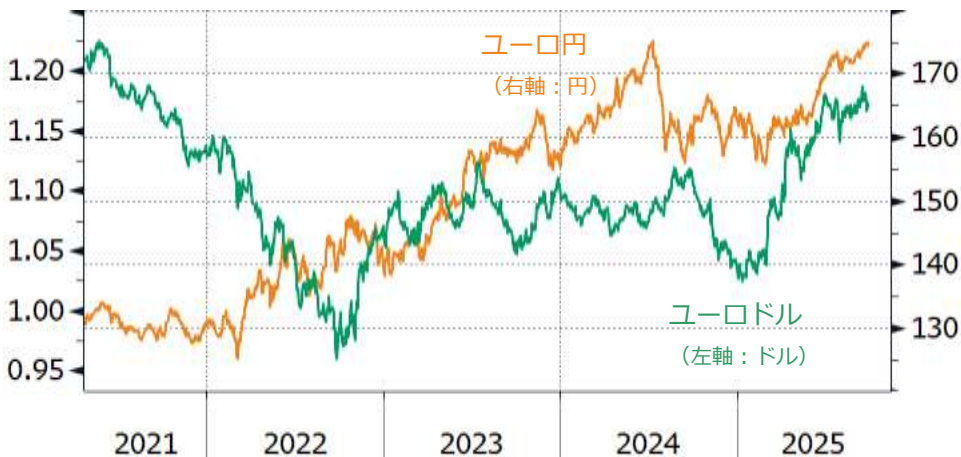
142.00 – 152.00円

日銀の利上げ観測高まれば、ドル円は小幅の円高修正を展望

9月のドル円は、中旬にかけては147円台を中心とするレンジ推移となった。17日のFOMC会合で利下げ再開が決定されると、一時146円を割り込む場面もあったが、2026年の政策金利見通しが市場の織り込みに比べてタカ派的であったこともあり、パウエルFRB議長の記者会見中にドル円は一転して上昇に転じた。月末にかけては、4-6月期米GDPが上方修正され米経済の堅調さが改めて確認されたうえ、日本の次期政権による財政拡張路線が意識され、149円台後半まで円安が進行した。

10月のドル円は、現状より小幅に円高方向へ振れ、市場の織り込む日米ターミナル金利差と期待インフレ差から算出される理論値である147円台を中心としたレンジ推移を想定している。短観調査や日銀支店長会議などを通じて、米国の関税政策が日本の企業業績などに与える影響は限定的であることが確認されれば、日銀が10月に利上げへ踏み切る可能性が高まる。これは円高要因となり得るため、ドル円の上値は抑制されやすいだろう。さらに、米雇用関連指標が弱含めばFRBによる利下げ継続観測が高まりやすいほか、日本の次期政権による財政拡張路線も最終的にはマイルドなものにとどまると見ており、足元のドル買い・円売りの動きは長続きしにくいだろう。

ユ ー ロ



出所：Bloomberg

ユーロドル

1.14 – 1.20ドル

ユーロ円

165.00 – 179.00 円

様子見姿勢を維持するECBのもと、ユーロは底堅く推移か

9月のユーロは、対ドルでは概ね横ばいで着地した一方、対円では上昇基調をみせた。米国ではFRBによる利下げ再開が意識され、ユーロドルは一時1.18ドル台後半まで上昇したものの、その後は米経済の堅調さを背景に戻り売りに押された。ユーロ圏ではインフレ指標が2%目標と整合的に推移しているほか、景況感の改善も続いており、ECBの追加利下げ観測は後退。当面は様子見姿勢を維持するとの見方が広がっている。こうしたFRBの利下げ継続観測との対比が、ユーロの相対的な底堅さを支えたとみられる。対円では、174円台まで円安が進行した。背景には、ドル円の円安進行に加え、日本国内で次期政権による財政拡張的な政策への期待が意識されたことも挙げられる。

10月のユーロは、引き続きFRBによる利下げ継続が意識されやすく、対ドル・対円ともに高止まりを維持する可能性が高い。ただし、日銀が10月会合で利上げに踏み切る可能性が高まれば、ユーロ円の上値は重くなる展開も想定される。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2025/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



出所: Bloomberg

ポンドドル

1.32 – 1.36ドル

ポンド円

185 – 205円

財政に関する税収不足懸念や悪い金利上昇リスクが意識され軟調な英ポンドを予想

9月の英ポンド相場は米国の雇用統計が極めて弱い数字となる中で、ドル安が進行したことで戻りを試す展開となり、7/1の年初来のピーク1.378を目指す展開となった。18日BOEは賛成7対反対2で政策金利4%の据え置きを決め、ベイリー総裁は年内の追加利下げには慎重な見通しを示した。一方、FRBは25bpの利下げを決定したものの、その後の講演でFRB高官は慎重な利下げスタンスを示した。徐々にドルの買戻し圧力が強まり、上げ幅を縮小。一方、ドル円が膠着状態となる中でポンド円は200円を挟んで狭いレンジで推移した。

10月の英ポンド相場は対ドルで再度下値を探る展開を予想する。財政面では11月の春季予算案公表を前に税収不足が懸念されている。更なる増税策が検討されれば景気の下振れ要因となりやすい。雇用関連の指標が悪化すれば、利下げとの思惑が高まりやすい。また不透明感を嫌気して入札が不調に終わる可能性もあり、悪い金利上昇も英ポンドの売り材料となる。膠着している対円相場も調整色が強まるであろう。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



出所: Bloomberg

豪ドル円

93.00 – 101.00円

NZドル円

82.00 – 88.00円

強い豪ドル・弱いNZドルの構図が継続か

9月のオセアニア通貨は、中旬までは豪ドル・NZドルともに上昇基調をみせた。しかし、18日に発表されたNZのGDPが市場予想を大きく下回る弱い内容となったことで、NZ中銀による大幅利下げ観測が台頭し、NZドルは下落に転じた。一方、豪州ではGDPが堅調な結果となり、さらにCPIも市場予想をやや上回った。これを受け、豪中銀が今後も慎重に政策判断を進めるとの見方が維持され、豪ドルは相対的に堅調な推移を続けた。鉄鉱石価格の上昇も豪ドルを下支えしたとみられる。

10月のオセアニア通貨は、米FRBの利下げ継続観測を背景とした投資家のリスク選好を追い風に豪ドルは堅調さを維持する一方、NZドルは軟調な展開が続く可能性がある。もっとも、8日のNZ中銀会合で25bpsの利下げにことどもれば、大幅利下げ観測の後退から一定の買い戻しが入ることも想定される。また、中国経済の動向にも引き続き左右されやすく、とりわけ11月上旬に期限を迎える米中関税交渉に進展があれば、豪ドルの支援材料となろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

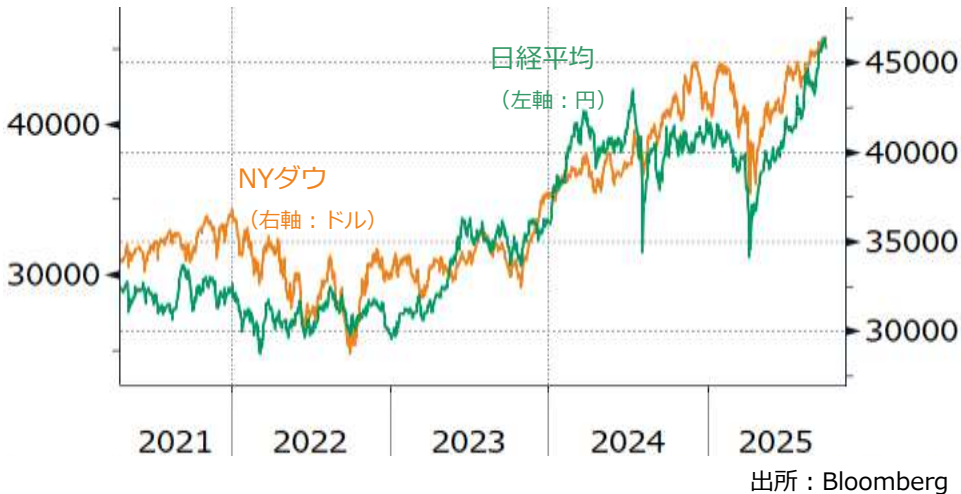
2025/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

42,000 – 46,000円

ショートカバーも一服し横ばい圏で推移する公算が高まった

日経平均株価のフェアバリューは42,700円–43,700円程度とみられる。足元の株価はフェアバリューを大きく上振れている。自民党総裁選通過をきっかけに、利益確定売り優勢とならないか留意したい。ここもとは、海外投資家は先物を買って越しているが、これが総裁選通過をきっかけに売り越しに転じることを警戒している。空売り比率の低下も一服基調であるため、従来よりも買い手が不足しており、株価が調整する際はその変動が大きくなりやすい。

NYダウ

43,000 – 48,000ドル

決算を控え利益確定売りと押し目買いが交錯しよう

米国株は、日本株程割高感があるわけではないが、急ピッチで上昇してきたこともあり、一旦はレンジ相場を形成する公算が大きい。10月は7-9月期決算発表を控え、利益確定売り優勢となるが、買い遅れた投資家の押し目買いもあり、一進一退とみる。また、筆者は米国経済は市場想定よりも底堅く推移するとみており(米国債見通し参照)、この場合はFRBの利下げパスがタカ派なものへ修正される過程で金利が上昇し、株価にはネガティブに寄与する可能性に留意したい。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

1.50 – 1.70%

日本銀行の利上げ期待が維持され長期金利は高止まり

ブルームバーグのアナリスト調査によれば、日銀の次回利上げ予想は10月もしくは1月が主流の見方になっている。また、9月の金融政策決定会合で高田審議委員と田村審議委員の2名が利上げ提案をしたことを踏まえれば、月末に開催されるに対する会合に向けて利上げ期待が高まっていくという展開が想定される。それを前提にすれば、長期金利は現状の1.6%台を中心として、市場が先走れば1.7%近くまで上昇する局面もありそうだ。

米国債10年

4.00 – 4.50%

米経済は中期的に底堅く推移し、金利は小幅に上昇しよう

米金利は4.15%~4.25%程度を妥当レンジとみている。期待インフレ率の低下を反映し、妥当レンジを下方修正した。もっとも、市場想定よりも米経済が底堅く推移するとの見通しは維持している。労働市場の軟化は、低スキル人材が中心で、富裕層が米経済を支える構図に変化はない。こうした状況下では、労働市場が軟化する中でも、株高や各種減税政策の影響等も相まって、個人消費は堅調となり、そうした状況が確認されるにつれて、金利は小幅に上昇しよう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年10月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨（アジア）

		10月の予想			見通し
中国	人民元/円	20.00	～	21.00	米中貿易交渉が膠着状態にありドル/人民元はレンジ相場が続く 9月にはFRBが昨年12月以来の利下げを実施し、更に年内連続利下げの見通しを示したものの、ドル/人民元は基本的にはレンジ相場が続いた。エネルギー調達について中国とロシアが近接していることを米国が問題視しており、米中の貿易交渉が膠着状態にあることが背景にあるとみられる。そうした状態が現状で期限とされる11月10日が近づくまでは続くと思われ、10月は基本的には9月レンジ相場が継続すると見ている。
	ドル/人民元	7.10	～	7.20	
タイ	バーツ/円	4.50	～	4.70	バーツ高対策が奏功し、対ドル、対円で軟調な展開 9月初より政治情勢の不透明感、ファンダメンタルズの悪化にもかかわらずバーツは堅調に推移。金の換金売りに伴うバーツ高も噂される中、2021年以来のバーツ高水準まで対ドルで買われた。しかし、フィッチによる格付け見通しの引き下げや金への課税、大幅な利下げ観測が浮上する中で徐々に持ち直し。10月は戻りを試す展開を想定。ファンダメンタルズ面では厳しい状況が続いており、バーツ高対策が奏功しバーツは売られやすい展開であろう。
	ドル/バーツ	31.5	～	33.0	
インド	100ルピー/円	0.85	～	0.93	国内の政局・財政不安からルピアは弱含みやすいか 9月のルピアは、対ドル対円ともに下落基調となった。17日の中銀会合で予想外の追加利下げに踏み切ったうえ、財務相解任を受けて財政運営を巡る懸念が高まったことも下押し要因となった。10月もルピアは軟調な展開が想定される。米FRBによる利下げ継続観測が下支えとなる一方で、国内の政局や財政を巡る不透明感の容易には払拭されにくい。加えて、日銀の利上げ観測が高まれば対円でのルピア安が一段と進みやすいだろう。
	ドル/ルピア	16,500	～	17,200	

—ドル・人民元（左軸） —人民元・円（右軸）



—ドル・バーツ（左軸） —バーツ・円（右軸）



—ドル・ルピア（左軸） —ルピア・円（右軸）



出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2025年			2026年									ポイント
		10～12月			1～3月			4～6月			7～9月			
ドル円	レンジ	135	～	155	140	～	160	140	～	160	140	～	160	日米金融政策の織り込みはある程度進んでいるが、米関税の影響がインフレ指標に表れ始めれば、FRBによる利下げ観測後退からやや円安が進行か。
	期末値	147			149			148			148			
ユーロドル	レンジ	1.10	～	1.22	1.10	～	1.22	1.10	～	1.22	1.10	～	1.22	ドイツをはじめとするユーロ圏各国の財政拡張方針や米国からの資産逃避を受けて今春より急速にユーロ高となった。関税合意の進展から一定程度ドル買い戻しの動きもあるうが、ECBは当面は様子見とのスタンスが示されたことでユーロは引き続き堅調に推移しそうだ。
	期末値	1.16			1.18			1.18			1.18			
ユーロ円	レンジ	160	～	180	160	～	180	160	～	180	160	～	180	
	期末値	170			176			175			175			
ポンドドル	レンジ	1.30	～	1.40	1.30	～	1.40	1.25	～	1.35	1.25	～	1.35	米国不信を背景とした英ポンド買いの流れが徐々に一服。金融政策面でも米利下げが徐々に一服となり、対ドルでじり安推移。一方対円では方向感に乏しい。政治的な不安定さから英財政リスクは英ポンドの上値を抑える要因となろう。
	期末値	1.34			1.34			1.30			1.30			
ポンド円	レンジ	185	～	205	185	～	205	185	～	205	185	～	205	
	期末値	198			201			192			192			
ドル人民元	レンジ	7.10	～	7.25	7.05	～	7.20	7.05	～	7.20	7.00	～	7.15	米中の貿易交渉は膠着状態が継続していることから、当面はドル/人民元のレンジ相場は継続する。FRBは9月から利下げを再開しているものの、関税によるインフレ懸念もあることから、利下げペースは緩やかとなり、ドル/人民元の下落も緩やかになる。
	期末値	7.15			7.10			7.10			7.05			
人民元円	レンジ	18.00	～	21.00	19.00	～	21.00	19.00	～	22.00	18.00	～	21.00	
	期末値	20.56			20.99			20.84			20.99			
豪ドル円	レンジ	92	～	104	92	～	104	92	～	104	94	～	106	豪中銀は今年2月より利下げ局面入りし、漸進的な利下げパスを見込む。利下げによる経済回復期待から、次第に豪ドルは上昇局面入りか。
	期末値	98			98			98			100			
タイバーツ円	レンジ	4.20	～	4.80	4.20	～	4.80	4.30	～	4.90	4.30	～	4.90	バーツ高対策が奏功し、上値の重い展開から、観光業の回復、景気支援策から徐々に底入れへ。
	期末値	4.50			4.50			4.60			4.60			

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
10/1(水)	7-9月期日銀短観	9月ADP雇用統計 9月ISM製造業景況指数	
10/2(木)	10年債入札	8月製造業受注	
10/3(金)	8月労働力調査	9月ISM非製造業景況指数 9月雇用統計	
10/6(月)			
10/7(火)	30年債入札 8月家計調査	3年債入札 8月貿易収支	
10/8(水)	8月毎月勤労統計 (速報)	10年債入札 FOMC議事要旨	
10/9(木)	5年債入札	30年債入札	
10/10(金)	9月企業物価指数		
10/13(月)	(スポーツの日)	(コロンブス記念日)	
10/14(火)			(独) 10月ZEW景気指数
10/15(水)	20年債入札	10月NY連銀製造業景気指数 9月CPI 米地区連銀経済報告	(中) 9月CPI
10/16(木)	8月機械受注	10月フィラデルフィア連銀製造業景気指数 9月PPI 9月小売売上高	
10/17(金)		9月住宅着工・許可件数	

	日本	米国	その他
10/20(月)			(中) 7-9月期GDP (中) 9月生産・小売・投資
10/21(火)			
10/22(水)	9月貿易統計	20年債入札	
10/23(木)		9月中古住宅販売	
10/24(金)	9月消費者物価指数	9月新築住宅販売	(欧) 10月PMI (速報値)
10/27(月)		2年債入札 5年債入札	(独) 10月IFO企業景況感指数
10/28(火)		10月消費者信頼感指数 7年債入札	
10/29(水)		FOMC (結果発表)	
10/30(木)	植田日銀総裁定例会見	7-9月期GDP (速報値)	(欧) ECB定例理事会
10/31(金)	2年債入札 9月鉱工業生産 9月住宅着工件数 9月労働力調査	9月個人所得・消費支出	(中) 10月PMI



◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス

りそな銀行上海駐在員事務所

【9/5～11】

◎ 中国企業の海外FDI が好調、24 年は世界3 位

中国企業の海外直接投資（FDI）が好調に伸びている。2024 年の海外FDI は世界3 位の規模で、金額は前年比8.4%増の1,921 億9,585 万米ドルだった。過去最高の2016 年以来となる高値を記録した。残高は3 兆米ドル（約440 兆円）を突破した。足元の投資先はアジアが8 割を占め、金融ハブの香港を経由して世界に出ていくという従来の流れが続いていることが分かる。幅広い業種が東南アジア諸国連合の各地で事業を拡げている現状も見取れる。

【9/12～18】

◎ 中国企業500 強、売上高は過去最高を更新

中国の経済団体である中国企業聯合会と中国企業家協会が15 日発表した2025 年度版の「中国企業500強」で、500 社を合わせた24 年の売上高は110 兆1,500 億元（約2,275 兆円）と過去最高を更新した。100 兆元の大台を超えるのは4 年連続。500 社のうち国有企業は251 社、民間企業は249 社。民間企業の京東集団が10 位、アリババグループが17 位、華為技術が23 位にそれぞれ入っている。

主要経済指標

項目	単位	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4	2025/5	2025/6	2025/7	2025/8
実質GDP成長率	%	-	-	5.4	-	-	5.4	-	-	5.2	-	-
消費者物価上昇率	%	0.3	0.2	0.1	0.5	-0.7	-0.1	-0.1	-0.1	0.1	0	-0.4
都市部調査失業率	%	5.0	5.0	5.1	5.2	5.4	5.2	5.1	5.0	5.0	5.2	5.3
輸出額	10億ドル	308.9	311.9	335.6	324.3	214.8	313.3	315.2	315.8	325.0	321.6	321.8
輸入額	10億ドル	213.1	214.6	230.5	186.2	183.6	211.1	219.2	212.8	210.6	223.5	219.5
経常収支	100万ドル	-	-	423,919	-	-	165,400	-	-	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,261.1	3,265.9	3,202.4	3,209.0	3,227.2	3,240.7	3,281.7	3,285.3	3,317.4	3,292.2	3,322.1
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.11	7.21	7.28	7.31	7.28	7.25	7.30	7.21	7.18	7.17	7.17

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○「脱口秀」の人气が高まる

大都市を中心に「脱口秀」と呼ばれるスタンドアップコメディの人气が広がっています。職場の人間関係や親世代とのギャップ、婚姻問題などの社会問題をコメディアンらがマイクで話し、観客の大きな支持を集めています。

2017年の夏休みに「脱口秀」番組が初めて放送され、爆発的人气を集めました。毎年放送されており、視聴回数の累計は数十億回に上っています。演者の多くが会社員、大学教授、警察官など本業を持つ若者で、夜や週末に舞台に立っています。

実体験をもとにしたトークをユーモアを交えて話し、観客の共感や笑いを誘います。観客層は若者に限らず、中高年層も相当数います。

番組の人气が高まり、ライブを見に行く人が増えています。ライブは1回80分、チケット代は1人60元（約1,200円）です。

上海「新天地」の劇場は、北京語、上海語、英語のライブが連日開催されており、多くの観客を集めています。

ライブの即興性や観客との軽妙なやりとりも、人気を支えている理由です。例えば、上海語の公演では、演者が観客に向けて「上海語が分からない人はいますか？」と問いかけると、数人が反応し、演者は「勇気あるね」と親指を立てつつ、間髪入れず「出てっいいよ」と畳みかけました。

不意を突いたジョークと上海語特有の響きが観客のツボを突き、会場は爆笑の渦となりました。

中国のチケット販売プラットフォーム「大麦」のデータによると、2024年の公演回数は、前年比で53%増加、興行収入は48%増加しました。上海では、2024年の公演回数は1万5千回を突破しました。

現在、単なる娯楽にとどまらず、言語や文化の発信の場としての役割も拡大しています。



◎注意事項をよくお読み下さい

2025/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆2025年7月の景気、前月から鈍化

- ・タイ中央銀行は2025年7月の経済報告書で、タイの経済は前月から鈍化したと発表した。
- ・鉱工業生産指数は前年同月比4.0%減と、前月の同0.4%増からマイナスに転じた。石油部門での大手製油所のメンテナンスによる一時的な閉鎖や、自動車の工場移転が背景にある。その要因を除けば、生産活動は回復している。
- ・民間投資は同6.3%増と前月の同13.6%増から鈍化した。機械・設備投資が減少したものの、建設投資は増加した。ホテルや戸建て住宅の建設が主因。民間消費は同0.7%減。耐久・準耐久消費財は増加したが、非耐久財は減少した。サービス部門は同2.7%減に落ち込んだ。中国人観光客は回復傾向にあるが、依然として前年を大きく下回っており、観光収入も減少。
- ・一方、政府支出は中央政府と国営企業の投資により拡大した。

◆2025年1～7月の自動車生産台数、前年同期比5.7%減

- ・タイ工業連盟（FTI）によると、2025年1～7月の自動車生産台数は83万5,331台で、前年同期比5.7%減となった。内訳は乗用車が30万3,068台（同8.0%減）、商用車が53万2,263台（同4.4%減）となった。
- ・動力源別での乗用車の生産台数は、内燃エンジン車（ICE）は同32.9%減の14万726台。バッテリー式電気自動車（BEV）は同397.9%増の2万7,408台、ハイブリッド車（HEV）は同12.7%増の12万4,577台、プラグインハイブリッド車（PHEV）は同190.9%増の1万357台だった。
- ・国内の新車販売台数は前年同期比0.7%減の35万1,796台となったが、7月単月では前年同月比5.8%増の4万9,102台と4カ月連続で前年同月を上回った。電気自動車の新規登録台数（乗用車のみ）は、前年同期比23.0%増の16万2,967台だった。
- ・完成車輸出台数は前年同期比11.7%減の53万1,796台で、輸出額は同14.0%減の3,612億2,400万バーツとなった。

主要経済指標

項目	単位	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4	2025/5	2025/6	2025/7	2025/8
実質GDP成長率	%	-	-	3.3	-	-	3.2	-	-	2.8	-	-
消費者物価上昇率	%	0.8	1.0	1.2	1.3	1.1	0.8	-0.2	-0.6	-0.3	-0.7	-0.8
失業率	%	1.0	1.0	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	-
輸出額	100万ドル	27,290	25,638	24,765	25,277	26,707	29,548	25,625	31,045	28,650	28,581	-
輸入額	100万ドル	27,761	25,661	24,638	27,157	24,719	28,575	28,946	29,928	27,588	28,259	-
経常収支	100万ドル	1,410	1,644	2,485	3,322	5,978	1,782	-1,545	-312	2,442	2,214	-
外貨準備高	10億ドル	238.6	237.5	237.1	242.1	244.8	245.3	256.8	257.6	262.4	261.9	267.4
主要政策金利	%	2.25	2.25	2.25	2.25	2.00	2.00	1.75	1.75	1.75	1.75	1.50
対ドル為替レート	バーツ	33.4	34.5	34.2	34.2	33.8	33.8	33.8	33.0	32.6	32.5	32.4

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年10月号)

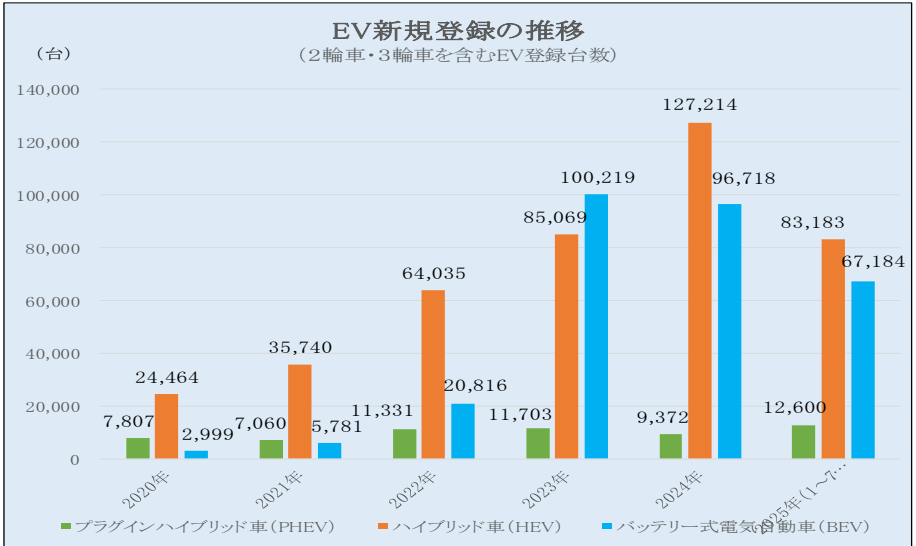
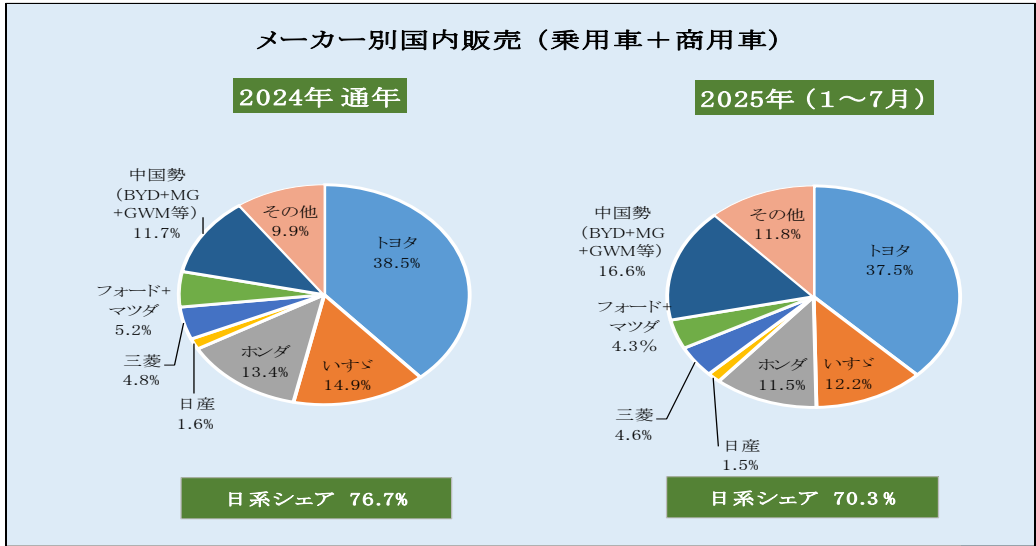
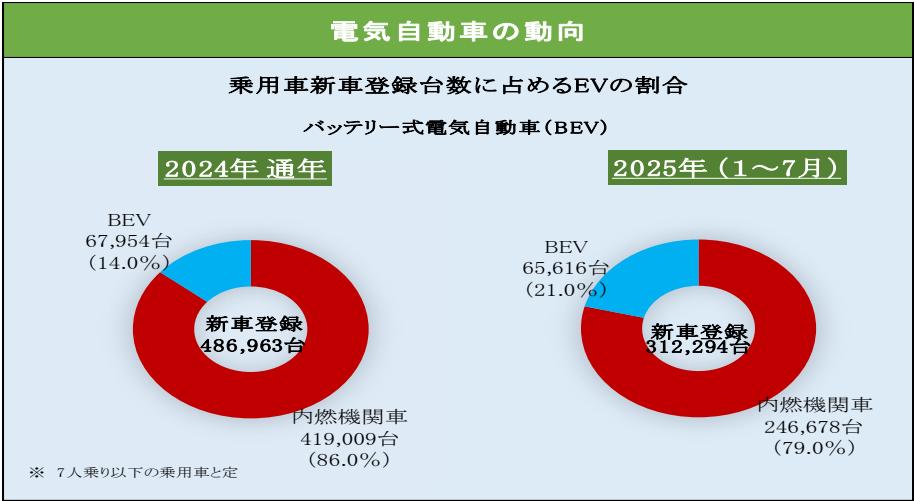
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

生産・国内販売・輸出の動向								
			2022年	2023年	2024年	2025年 (1～7月)	前年同期比 (%)	7月
【台数】		(台)						
四輪	生産台数	乗用車	600,839	648,803	558,440	303,068	92.0	38,400
		商用車	1,282,676	1,192,883	910,557	532,263	95.6	72,216
		合計	1,883,515	1,841,686	1,468,997	835,331	94.3	110,616
	国内販売台数	乗用車	265,069	292,505	224,148	136,242	100.3	18,760
		商用車	584,319	483,275	348,527	215,554	98.6	30,342
		合計	849,388	775,780	572,675	351,796	99.3	49,102
輸出台数		1,000,256	1,117,539	1,019,213	531,796	88.3	72,439	
二輪	生産台数	2,015,940	2,120,738	1,887,208	1,207,227	105.4	165,235	
	国内販売台数	1,792,016	1,856,814	1,683,239	1,050,623	101.8	144,458	
	輸出台数	1,034,840	822,608	938,762	507,428	107.3	71,250	
【完成車輸出金額】 (百万バーツ)								
四輪			619,348	719,992	699,163	361,224	86.0	46,853
二輪			73,729	68,589	63,969	36,974	99.0	5,246

出所：タイ工業連盟 (FTI)



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

11